

2030 ありあけ 元気なまちづくり戦略事業

府本小で採れたお茶をぜひ味わって！

～府本小児童が、市長にお茶をプレゼント～

5月25日(水)、府本小学校の児童代表古嶋真夢さん、山崎裕大さん、水本啓介さんが市役所を訪れ、前畑市長に府本小学校で採れたお茶を贈りました。

府本小学校にはおよそ50アールの茶畑があり、約80年の歴史があります。毎年児童が茶摘みをし、今年はおよそ30キロの茶葉が収穫できました。収穫した茶葉は鹿北町で製茶し、児童の家庭や老人ホームなどにも配布され、喜ばれています。

市長に贈られたお茶は、市長室を訪れた人にもふるまわれます。



▲左から水本さん、山崎さん、古嶋さん、前畑市長。早速みんなでお茶を味わいました。今年のお茶も甘みがあり、とてもおいしいと評判です。

荒尾を訪れる人を花でおもてなし

～住みたいまちプロジェクト 花植え～

5月21日(土)、2030ありあけ明優都戦略住みたいまちプロジェクトの一環として、県道平山荒尾線の宮内交差点から東へおよそ1.8kmの区間(通称グリーンアベニュー通り)の植樹ますすに、花の苗約2千株を植えました。

市内の主要幹線道路に花や木を植え、魅力あるまちづくりを目指す事業で、「花のある美しい荒尾」をつくるため、大人から子どもまで、およそ60人が参加しました。次回は、秋の花植えを予定しています。



▲家族で一懸命命花を植えました。グリーンアベニューを通る時は交通安全に注意しながら、道沿いの花にも目を向けてみてください。

読まなくなった本を有効に活用しよう

～本の交換会～

5月28日(土)と29日(日)、市立図書館で本の交換会が開催されました。2日間で市内外からおよそ31人が参加しました。

この催しは、家庭に眠っている読まなくなった本を交換することによって有効に活用し、読書の機会を増やしながら循環型社会の発展に貢献しようと、毎年5月と10月に開催されています。

書籍や文庫本、絵本や実用書などさまざまな種類の本が持ち込まれ、2日間で千238冊の持ち込みと2千743冊の持ち出しがあり、活発な交換が行われました。



▲毎回盛況の催しです。交換する本がなくても参加できます。今まで読んでいなかったジャンルの本と、気軽に出会えるチャンスです。

環境に優しいゴーヤのカーテンに期待

～「緑のカーテン」植え付け作業～

5月25日(水)、市役所で、エコパートナーあらかし市民会議のメンバーが緑のカーテンの植え付け作業を行いました。この植え付けは2年前から行っていて、今年はゴーヤ24本が8つのプランターに植栽されました。プランターは市長室と副市長室の庁舎南側ベランダに設置されています。夏には大きく育成し、青々としたカーテンとなって日差しを弱める効果が期待されます。

昨年同様、今年も収穫時期には、来庁者にゴーヤを提供していく予定です。



▲小雨が降る中、ゴーヤの苗が手早く植え付けられました。今年はプランターの下に断熱材を敷きベランダ床の熱から苗を守る工夫もされています。

地域への思いを熱く語るひととき

～平井地区で「市長と“まちづくり談義”」～

6月3日(金)、上井手上地区集落農事集会所で、「まちづくり談義」が開催され、平井地区の住民約50人が参加しました。

これは市長が地域の皆さんと直接語り合い、市政への意見や提言をいただくものです。

学校規模適正化や市民病院についての質問・要望が寄せられるとともに、平井地区の恵まれた自然環境と岩本橋をはじめとした地域の文化資源に関する話題などが語られ、まちづくりに対する思いがあらわに語られました。



▲地域の活性化や市の将来について、たくさんの意見や提言が出され、語り合う場となりました。

下水処理水を使ってホタルの養育

～浄水センターでホタルの観賞会～

5月25日(水)、浄水センター敷地内の人工小川「せせらぎ水路」でホタルの観賞会が開催されました。

浄水センターを管理している九州設備公社では、下水処理水を使って平成20年からホタルの飼育を行っています。今年は3月下旬に、これまでに最も多い2千匹の幼虫を放流しました。

観賞会には、放流に携わった四ツ山幼稚園や万田小学校の保護者と児童を招待しました。親子連れを中心におよそ150人が訪れ、ホタルを楽しみました。



▲ホタルが放流されているせせらぎには、覆いが掛けられています。親子連れが次々と訪れ、ホタルの舞いに歓声をあげていました。